

山鳥坂ダム工事事務所の事業概要

国土交通省 四国地方整備局
山鳥坂ダム工事事務所長 竹内 宏隆

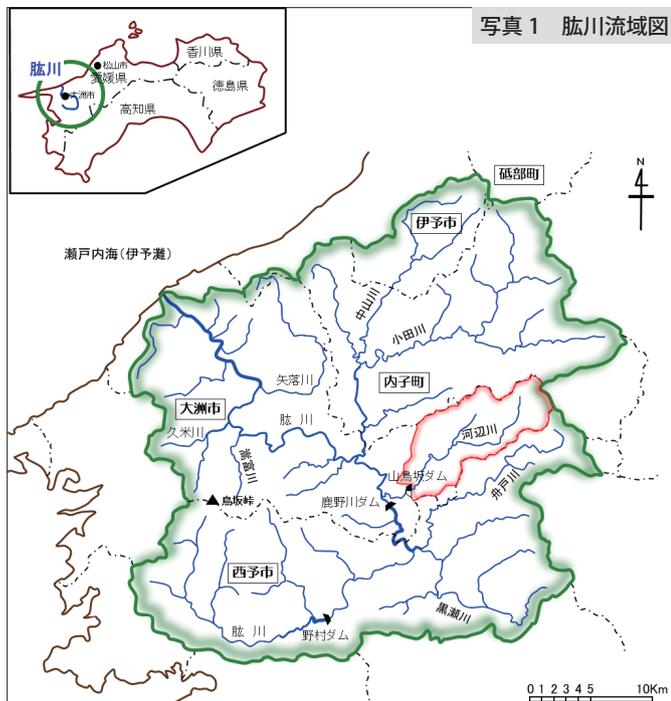


写真1 肱川流域図

緩いため洪水が流れにくく、さらには大洲盆地に支川が集まり洪水が集中しやすい地形特性を有しており、たびたび洪水被害に見舞われています。特に平成30年7月に発生した西日本豪雨では、西予市も含めた広範囲で大規模な洪水被害が発生しました。

ことを目的としています。

現在、地域の皆様の生活再建、地域振興を最優先に、付替道路や工事用道路等の工事を鋭意実施しているところです。付替道路工事では、付替県道として敷水トンネル（約832m）、愛の森トンネル（約2,128m）のトンネル2本と橋梁4本を含む約6.2km、付替市道として橋梁2本を含む約1.1kmの工事を進めています。付替県道のうち約4.2km区間は、ダム本体基礎掘削までに供用開始する一次切替区間として進捗を図っています。令和4年度には一次切替区間である両トンネルが貫通し、現在は舗装や照明・非常用設備工事を実施しているところです。また、唯一の湖面横断橋となる新入船橋についても高さが70mを超える橋脚の工事を実施中であり、引き続き上部工の工事を予定しています。

1. はじめに

山鳥坂ダム工事事務所は、愛媛県の南西部に位置する大洲市肱川町を流下する肱川水系河辺川において山鳥坂ダム建設事業を行っています。

肱川は、愛媛県最大の河川で、その源を西予市の鳥坂峠（標高460m）に発し、数多くの支川を合わせながら大洲盆地を貫流して、伊予灘に注いでいます。河川の名が示すように“ひじ”のように大きく曲がっていて、幹川流路延長103kmに対して、源流から河口までの直線距離はわずか18kmしかありません。

また、大洲市街地がある大洲盆地から河口に向けて、山が両岸から迫っていることに加えて、河床勾配が非常に

このような状況を鑑み、国・県が連携して激特事業等による河川整備を推進するとともに、出水時における肱川の洪水ピーク流量の抑制、ダム下流から河口までの水位低減を図るべく、山鳥坂ダムの建設を推進しています。

2. 山鳥坂ダム建設事業の概要

山鳥坂ダムは、肱川本川に合流する支川河辺川（鹿野川ダムの0.5km下流で合流）に建設する堤高約96m、堤頂長約279mの重力式コンクリートダムで、洪水調節容量（1,400万m³）、河川環境容量（920万m³）を確保する

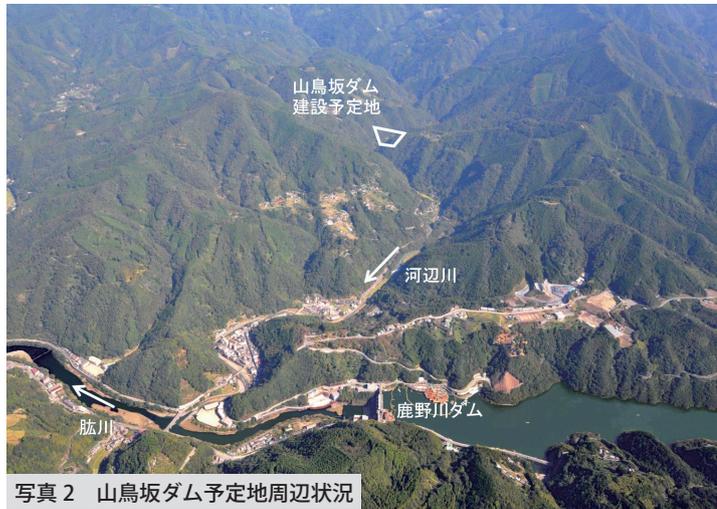
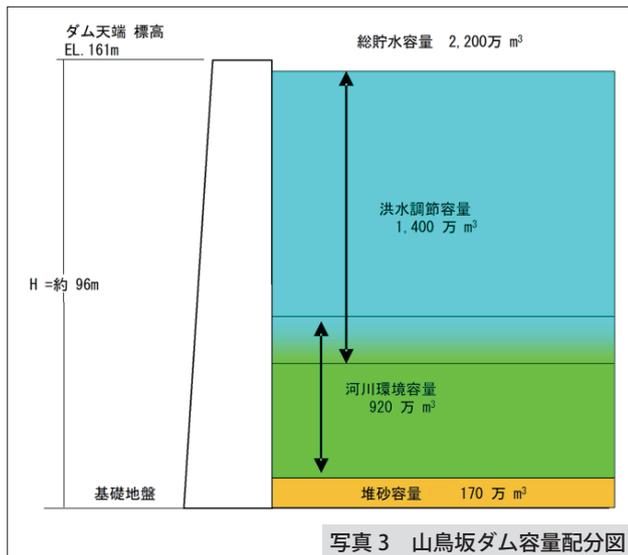


写真2 山鳥坂ダム予定地周辺状況



さらに、今後のダム本体工事に向けて、令和5年度に着手した延長約682mの仮排水トンネル（転流工）工事の進捗を図っています。

3. 広報の取組

山鳥坂ダム建設事業は地権者の方々を始め、周辺地域の皆様のご理解・ご協力をいただいているおかげで事業を進められています。そこで山鳥坂ダム工事事務所では、事業全体や工事、イベント情報などを地域住民の皆様や関係者の皆様などにご理解いただくための広報の取組を積極的に行っています。山鳥坂ダム工事事務所のWEBサイトにブログを掲載するとともに、SNSを活用した発

信などを行っています。

流域全体では、「つなごう肱川プロジェクト」のもと治水対策を進めると同時に、地域住民の皆様の事業への理解、水防災意識の向上のため、大洲河川国道事務所・肱川ダム統合管理事務所・山鳥坂ダム工事事務所の流域3事務所が一丸となって、広報活動にも積極的に取り組んでいます。

さらに、これら実施にあたっては、一般の方に近い目線での広報を目指し、若手職員が中心となって広報活動を推進するためのチーム（Rising 肱川）を結成し、イベントの企画や地元イベントへの参加、SNSを活用した発信など、精力的に活動しています。

【山鳥坂ダム工事事務所ブログ WEB】

(<https://www.skr.mlit.go.jp/yamatosaba/blog/index.html>)

【つなごう肱川プロジェクト WEB】

(<https://www.skr.mlit.go.jp/hijikawachisui/hijikawa.html>)

4. おわりに

当事務所では、地域の皆様の安全・安心の確保や地域経済の発展に向け、事業に取り組んでいるところですが、今後も関係自治体と連携し、地域の皆様にご協力をいただきながら、山鳥坂ダム建設事業の早期完成を目指し取り組んでまいります。関係する皆様にも、引き続き、ご支援・ご協力をお願いさせていただければ幸いです。

